

かわべ

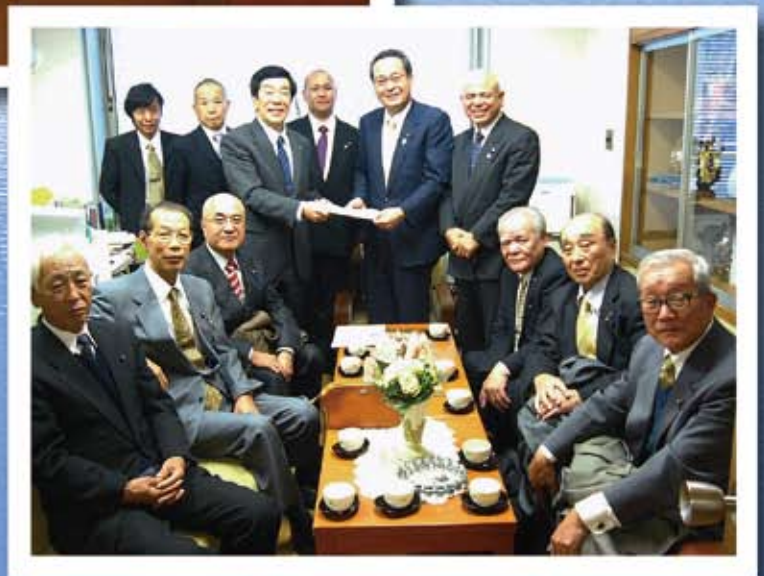
議会だより

KAWABE



国土交通大臣室にて

川辺町議会は、昨年11月25日、金子一義国土交通大臣、藤井孝男参議院議員と面談し、41号美濃加茂バイパス早期完成などを要望しました。



参議院議員会館内事務所にて



平成21年2月19日
第118号

- 議長談話 2
- 12月定例会 3
- 議会日誌 3~4
- 一般質問 5人の議員が質問 4~10
- 議会は、今 11~12
- 編集後記 12

議長談話

年賀状に「明けましておめでとう。」と書くのが、はばかれる年明けとなりました。政府の経済財政見通しなどは、全くあてにならず日本の経済も、断崖から突き落とされたこととなりました。町内の事業者はもちろんのこと、給与所得者においても、それぞれの家計がどうなるのか全く混沌とした年になりそうです。しかし、我々日本人の血には、戦後50年で敗戦の泥沼から世界に類を見ない発展を遂げた血が流れています。悲観せず堂々と、この状況から抜け出す努力をしましょう。

さて、今回、議会報において議長談話なるコーナーをいただき、その時々々の行政に関わるトピックスや問題点などを伝達し、町民の皆様にも少しでも情報公開できればと考えるところです。

20年12月議会も終わり今は、執行部（町長部局）が提出した21年度〜23年度事業実施計画（財政計画）などを基に、4月からの新年度の主な事業計画や諸施策などが妥当であるか、すり合わせを行っているところです。

執行部、議会が今、緊急にその対応を研究しているのは、急降下している地方経済の問題です。可見市・美濃加茂市では、お正月返上で職を失った派遣労働者をはじめとした人を対象に、住居や職の相談窓口を開きました。本質は経済不況によるものであり、根本治療はできないまでも、川辺町としても、中小企業者及び勤労者に対しての支援が、できないかの研究をしています。（1月13日現在）

現在協議中の主な新年度事業など各種の問題について、協議の結果や経過などの概要を、本誌の最後の2ページに掲載し、議会としての立場でのお知らせとさせていただきます。

◎川辺町の懐具合と事業総括について

日本経済が破綻するがごとく、毎日、テレビなどで報道があります。町民の皆さんからも、川辺町の財政を心配して、事業の縮小や、施行年度の見直しなど、いろいろな助言をいただきますが、日本の地方交付税制度は良くできています。小泉内閣の三位一体改革により、その制度の見直しが若干されたが、我々が想像したほどの事はなく、不足する財源は政府が持つてくれます。当たり前です。地方で時間と金をかけて育てた、優秀な労働力を都市部、特に、交付税の不交付団体である地域に送りだしているのは、地方なのです。

我が川辺町は、先人の賢さから無駄な事業、無謀な借金はしていません。現在100億ほどの借金がありますが、65億ほどは下水道関係であり、その借金の返済は、後の川辺町を担ってくれる若者に委ねることとなりますが、彼らもその恩恵にあずかるのだから応えてほしい。大丈夫である。健全財政といつてよい。

我が町は企業城下町ではないが、この経済不況による町内の法人税をはじめ町税は、減収すると予想されます。しかし、不足する金は、ほぼ政府が持つてくれます。ここが、一般の企業とは違います。同

じであれば、皆さんが心配してくださるような方法で、事業の見直しをしなくてはならない。

21年度の予算総額は、前年度を大きく上回ると予想されます。東タウンの住宅建設費が組み込まれるためですが、心配はない。西タウンも問題なくその借金を払っています。箱物でも、家賃収入など使用料が入ってくるものに関しての借金は、問題はない。しかし、投資対効果を慎重に精査し、一般企業並に経済効果も発揮、期待できる事業であれば、なお喜ばしい。特に、時代に合った事業、少子化対策事業とか児童福祉事業や人口減少の事態に対応する事業に取り組みする必要があります。

我が議会は、一昨年暮れより、『川辺町活性化対策特別委員会』なる委員会を設置し、町の活性化について幾度となく話し合い、若者定住による人口増加策などが、執行部に答申されています。21年度予算にどの程度反映されるか、これからの協議となります。政府は景気の底上げのために公共事業を推進、あるいは前倒ししてくるだろうが、川辺町の負担も比例して一気に増加することも危険なので、議会としても慎重に対応したい。

一時前の議会議員16人の時と比較すれば、現在の10人の議員にかかる責任は大きく、風邪もひけない。21年の年頭にあたり、私たちは、より知恵を絞り他市町に負けることのない町づくりに貢献できるように紐を締め直すところです。

本年も、なお一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

議長 日下部 明 伸

12月定例会 (12月10日～16日まで)

本定例会では、条例案件2件、予算案件3件、その他の案件1件の計6議案を審議し、いずれも原案のとおり可決しました。
また、追加案件として提出された条例案件1件と予算案件1件についても審議し、可決しました。

条例案件

▲国民健康保険条例の一部改正

産科医療補償制度の創設により、被保険者が出産に際して負担する費用の増加が見込まれることから、出産育児一時金の支給額を現行の35万円から38万円(上限)に改めました。

※21年1月1日以後の出産について適用。

▲やすらぎの家の設置及び管理に関する条例の一部改正

やすらぎの家の管理について、指定管理者制度を導入するための必要な事項を規定しました。

▲認可地縁団体の印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正

「事務所」を「主たる事務所」に改めました。

予算案件

▲一般会計補正予算(第3号)

1億1944万円減額し、総額を38億2759万円としました。
主な内容は

歳入では、
・繰越金で1037万円増額。
歳出では、
・川辺東タウン建設事業で9526万円減額。

・町道新設改良事業で4469万円減額。
・福祉医療費助成事業で1549万円増額。

▲一般会計補正予算(第4号)

・河川修繕工事で322万円減額。
・第三保育所等運営管理委託料で680万円増額。
・飛騨美濃じまん農産物育成支援事業で60万円増額。

2億3237万円増額し、総額を40億5997万円としました。
主な内容は

ケーブルテレビ整備支援事業を実施するため。歳入では、
・国庫補助金で7125万円。
・繰越金で5722万円。

・基金繰入金で5321万円。
歳出では、
・事業者への補助金で2億3187万円(事業費の8分の7相当分)

▲国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)

7765万円増額し、総額を10億8030万円としました。
主な内容は

・医療費の不足が見込まれる一般被保険者の療養給付費及び高額療養費を増額しました。

▲介護保険特別会計補正予算(第2号)

302万円増額し、総額を7億7683万円としました。
主な内容は

21年度介護保険制度改正に伴うシステム改修費を計上しました。

その他の案件

▲町道の路線認定

上川辺地内の1路線(延長25メートル)を町道に認定しました。

議会日誌

20年11月～21年1月

〔11月〕

1日・あらたまの日(参観)

4日・渡辺猛之県議会議員との懇談会

・可茂地域市町村議会議員研修会

・議会全員協議会

・議会報編集委員会

7日・学校給食運営委員会

・地方自治連絡協議会

11日・新人議員研修会

・議会報編集委員会

15日・坂祝町政40周年記念式典

19日～20日・町村議会議長全国大会

25日・要望活動(東京)

27日・中濃地域農業共済事務組合議会定例会

28日・議会報編集委員会

←次ページに続く